

RSウイルス感染症、今夏も市内で流行中！ 乳幼児は注意を

8月に入って今治市内でRSウイルス感染症(以下RSV感染症)の報告数が急増しています。RSV感染症はこれまで秋から冬にかけて流行する病気とされてきましたが、近年では流行の開始時期が早まってきています。2017年の愛媛県内の発生状況を見ると、7月から患者数が増加しはじめ、8月から9月にピークを迎えています。2018年も2017年と同様の流行パターンをとっていることから、今後もしばらく流行が続くものと思われます。RSV感染症は細気管支炎や肺炎を起こす病気です。2歳以下の乳幼児は、重症になることがあるので特に注意が必要です。

RSV感染症は次のような場合疑われます！早期受診を勧めてください。

- ・2歳以下のお子さんで、夏場なのに発熱以外に鼻水や咳がある。
- ・夜間の咳がひどい、胸がゼーゼーいう。
- ・通園している保育所、幼稚園で流行がある。
- ・家族に咳が長引いている人がいる。



みんな元気に
なあれ～

みんなで
おりがみしようね



いっしょにしよね～

体調がいいから
体を動かしてみよう！



熱が高いため
ゆっくり休んでます。



ブログはじめました。
病児保育室の
ちょっとしたひとコマを
紹介しています。
ご覧ください



8月のご利用状況

8月の利用人数は57名、1日平均利用人数は2.8人でした。
年齢別では、1歳児37名(65%)、2歳児7名(12%)、0歳児(7%)でした。
疾患別では、8月前半は夏かぜと思われる急性上気道炎が、8月後半はRSV感染症が目立ちました。
その他、手足口病、溶連菌感染症がありました。RSV感染症で咳や喘鳴が強いお子さんには、入室中に吸入や鼻腔吸引の処置を行いました。